

ドキュメント作品 W 受賞

深志高の放送委制作班

NHK杯と
総文祭



松本深志高校放送委員会制作班が作ったドキュメント映像作品が、このほど開かれた全国規模の大会で相次いで高い評価を受けた。

第66回NHK杯全国高校放送コンテストのテレビドキュメント部門で優勝し、全国高校総合文化祭の放送部門で優勝した。

今夏受賞したNHK杯の優勝杯や総文祭の表彰状と西尾班長

母校で授業を受ける企画を取り上げた。「卒業28年目のLHR」として始まり、昨年まで計8回開いた15年間の総集編として、歴代の放送委員が記録した映像も用い8分間の作品に仕上げた。現役の高校生が登場しない異色の作品で、同窓生に焦点を当てHHRの意味を問う内容になっている。

NHK杯では「最後のLHR（ロングホームルーム）」と題して、昭和51（1976）年3月に卒業した「3年8組」の生徒が平成16年から続ける当時の学級担任・山本伍朗さん、安曇野市に

「見心地」とした。テレビドキュメント部門は、全国の各都道府県予選に511作品、全国大会参加は194作品だった。総文祭の出品作は「二代目はつらいよ」と題し、地域と高校生が課題解決を探索意見交換の場「鼎談深志」で生徒側組織の2代目委員長の奮闘を追った番組になる。29年にNHK杯で全国優勝したときに取り上げた題材の続編になる。丹念に取材した様子が分かる作品だ。

（瀬川智子）